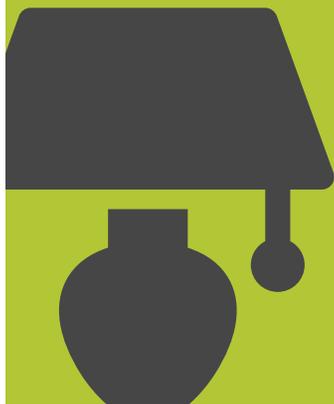


トリップアドバイザー業界 指数調査-2012年中間調査 上半期集計レポート

こちらはトリップアドバイザーの独占情報です

ホテル業界の主要トレンドを発表します



トリップアドバイザー2012年業界指数調査は、宿泊施設に関する世界最大規模の調査です。国別の景況予測、オンラインやモバイルが旅行業界にもたらす影響等、様々な考察を含んでおります。

この調査は世界最大級の旅行サイトトリップアドバイザーによって行われ、こちらの調査には世界中の2万5千以上の施設から回答を頂きました。

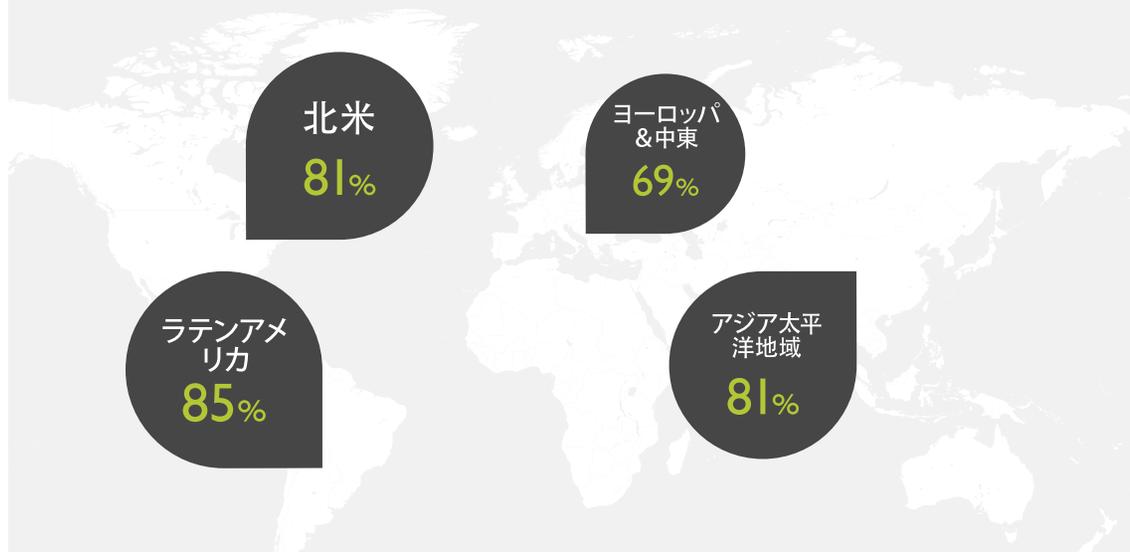
 **tripadvisor**[®]
for business

景況感について

ビジネスの状況を把握する際に、利益指標だけで成功を図ることは困難です。2012年、世界中の宿泊施設オーナーがどのように活動してきたか。どの地域の施設がより高い収益を上げていたのかについて考察を行いました。

地域別景況感について

アジア太平洋地域、北米、ラテンアメリカのホテルはヨーロッパや中東に比べると高い収益性を示しました。



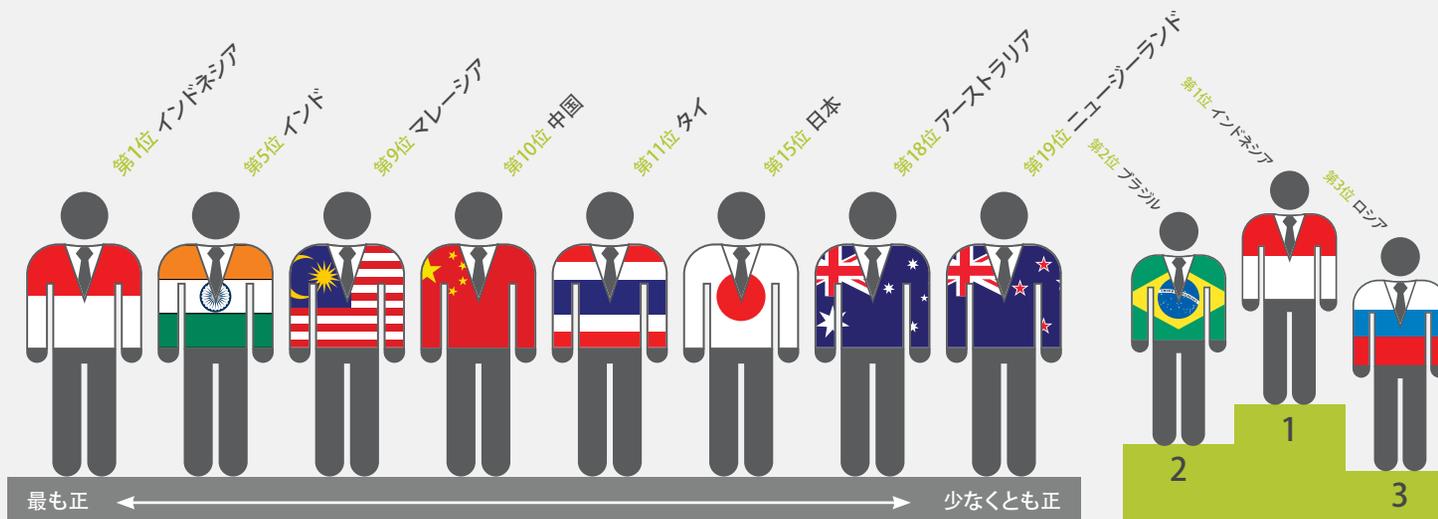
最も好況を示した国

2012年の前半はインドネシアやインドのホテルで好況でした。インドネシアの施設の44%、インドの施設の35%の施設が非常に好況であったと答えました。これは地域内でも最も高い結果でした。

一方で不況を示した主な国はニュージーランド (9%)、日本 (6%)、オーストラリア (6%) でした。

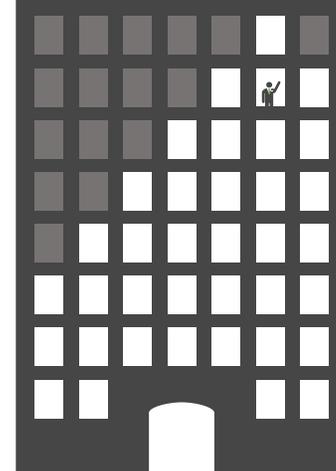
国別景況予測

私たちは2012年の下半期に関する景況予測について宿泊施設の方にお伺いしました。世界経済を知るうえで興味深い結果が出ました。国別景況予測の中でアジアパシフィック各国の順位はインドネシアが1位、インドが5位、マレーシアが9位という結果になりました。



規模別景況感について

50部屋以上の部屋を持つ施設は、50部屋未満の施設と比べて、直近6か月に好況だった割合が、約2倍となりました。

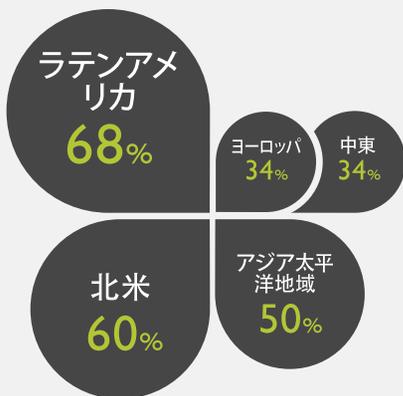


宿泊施設単位の景況予測

トリップアドバイザーは25,000件の宿泊施設オーナーからの景況予測情報を集約し、2012年の下半期に対し業界全体がどのような予測を立てているかについて調査しました。

好況への期待

アジア太平洋地域のホテルのうち50%が2012年下半期の好況を予測しています。ラテンアメリカの68%、北米の60%の宿泊施設も同様に考えており、一方でヨーロッパや中東では経済回復を期待する宿泊施設の割合は34%にとどまりました。



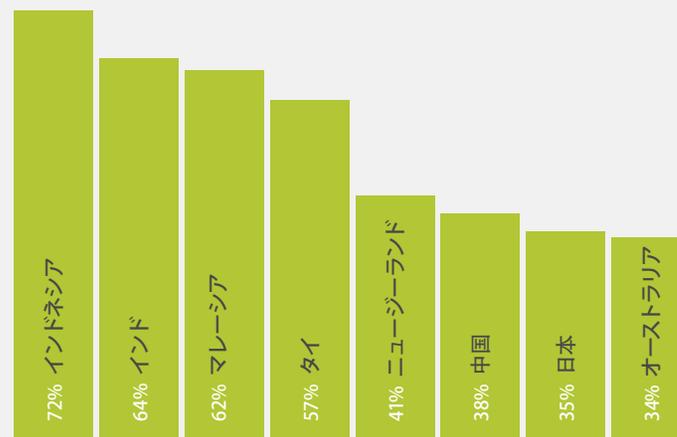
46%

全体（全世界）の46%の宿泊施設が2012年に入ってから景気回復を感じており、33%は今後もこのトレンドが続くと感じています。



国別景況見通し

2012年下半期の経済回復についての国別の見通しです。アジア太平洋地域の部屋数50以上の宿泊施設は特にポジティブな予測を示しています。



従業員数の保持

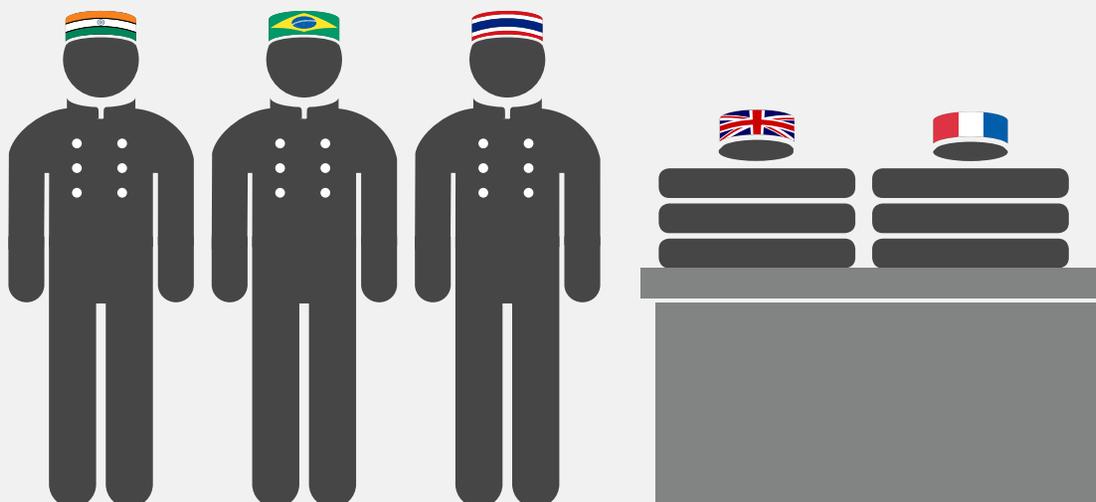
64%

の宿泊施設が下半期に向けて従業員数を今のレベルでキープする予定です。また15%以上の施設が新たな採用を計画しています。



雇用機会創出

アジア太平洋地域では、インド (39%)、タイ (31%)、インドネシア (30%) が2012年上半期の雇用機会創出数上位3カ国となりました。一方で雇用機会創出数が少なかったのは、ニュージーランド (9%)、オーストラリア (8%) でした。



国別雇用機会創出について

アジア太平洋地域で雇用機会創出が多くなると予想されています。インドの宿泊施設のうち39%が今年下半期で従業員を増やすと予定しており、これにタイ (31%)、インドネシア (30%) が続いています。ニュージーランド (9%)、オーストラリア (8%) はだいぶ低い結果となりました。

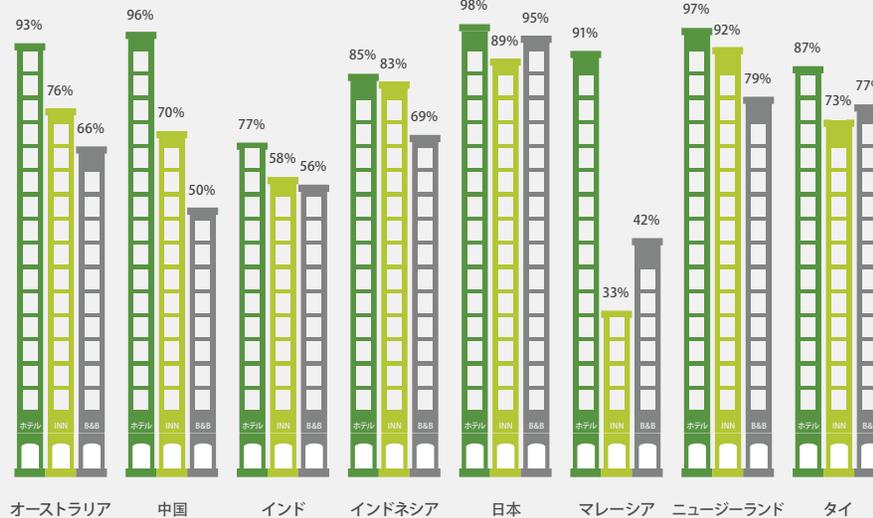


予約方法のトレンド

モバイルの台頭がホテル業界の予約獲得戦略にどのような影響を与えたか、そして2012年上半期に新たに目撃したトレンドについて考察します

B&Bのオンライン対策について

多くの国で、B&Bがホテル等の宿泊施設と比べてオンライン予約についての取り組みが遅れていると感じています。施設タイプ別オンライン予約を提供している割合



ご存知でしたか?

36%
現在無料WiFiを実装していない宿泊施設のうち36%は、下半期に無料WiFiの実装を予定しています。

オンライン予約の実装

世界中の多くのホテルが、旅行者が利用できるオンライン予約の実装に注力しています。オンライン予約の実装割合について、国別の上位10カ国は下記のとおりです。

- 98% 日本
- 97% ニュージーランド
- 96% ロシア
- 96% 中国
- 94% カナダ
- 94% 米国
- 93% オーストラリア
- 91% マレーシア
- 91% メキシコ
- 89% スペイン

宿泊料金のトレンド

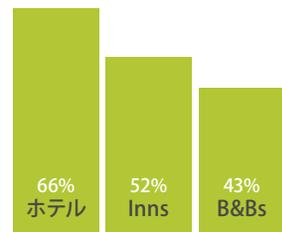
53%

世界中の53%の回答者が6月~8月の旅行シーズンに予約獲得の目的でディスカウントを行っており、また9月~10月にまた改めてディスカウントを予定しています。一方で6月~8月に価格を上げた回答者のうち60%は9月以降に再び値上げを実施する予定です。



モバイル

56%の回答者がモバイルからの予約獲得が重要であると認識しています。下記は宿泊施設のタイプ別に、モバイルが重要であると回答した施設の割合です。



国別宿泊料金の下落

下半期の宿泊料金について、今後大きな下落が予想されると回答した国もありました。オーストラリアが第1位で32%の施設が宿泊料金の下落を予測しています。主な下落予測国は下記のとおりです。

32%



マーケティング

世界最大級の旅行サイトとしてトリップアドバイザーはホテルオーナーならびにマーケティング担当の方がどのようなマーケティング活動を行っているかについて調査しました。2万5千を超える回答が寄せられ、主要なトレンドについて調査を行う事が出来ました。



ソーシャルへの進出

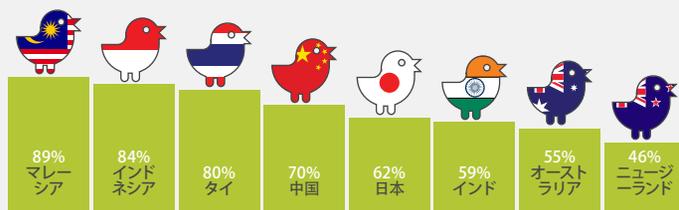
世界的な傾向として、ソーシャルメディアがマーケティングツールとして台頭してきています。およそ全回答者の3分の2がソーシャルメディアを顧客勧誘の手段として使っています。50部屋以上の大きな宿泊施設では、小さな施設と比べて倍の割合でソーシャルメディアを活用していると示しています。

83%

世界中全体の83%の宿泊施設が宿泊客に対してフィードバックを促しています。また78%以上の施設がトリップアドバイザーのようなサイトでの口コミ投稿を勧めています。

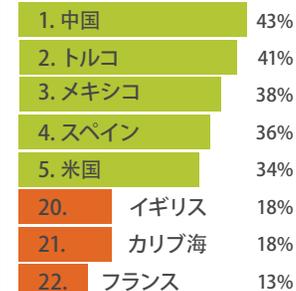
国別宿泊施設担当者のソーシャルメディア利用状況

アジア太平洋地域の宿泊施設は全世界と比較しても、高い割合でソーシャルメディアを既存顧客/見込顧客へのコミュニケーションに用いています。マレーシアが1位、それにインドネシアが2位で続きます。下記は国別宿泊施設担当者のソーシャルメディア利用割合です。



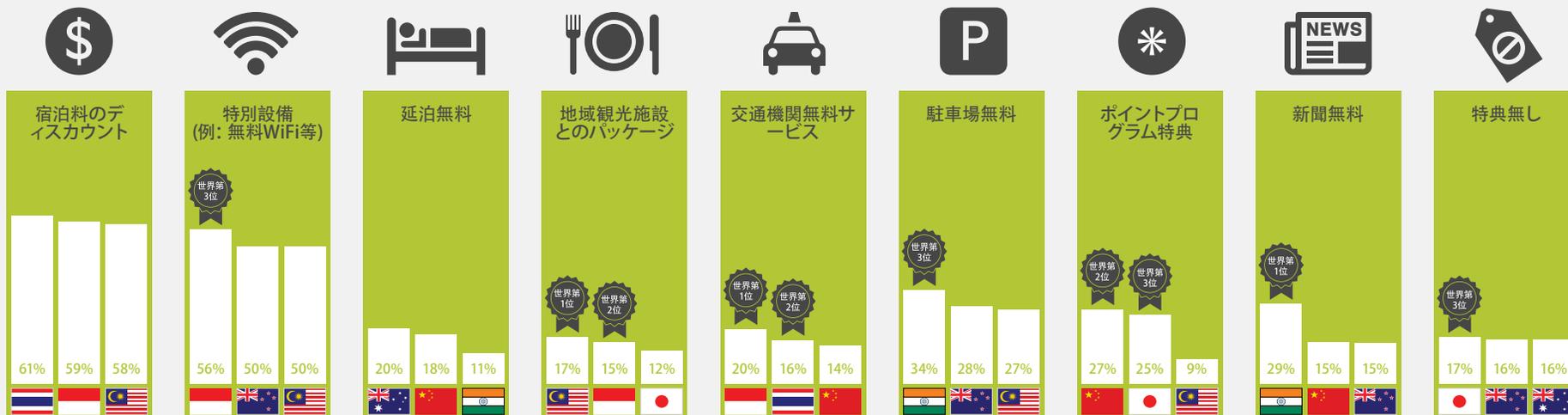
モバイルマーケティング

旅行者のモバイルに対して最もコミュニケーションを図れた国はどこでしょうか？



特典

世界中の多くの宿泊施設が、競合対策や予約獲得促進の目的で特典を設けています。最も用いられている特典が宿泊料のディスカウントです(55%)。下記はアジアの中で、どのタイプの特典が各国で提供されているかについての調査結果です。

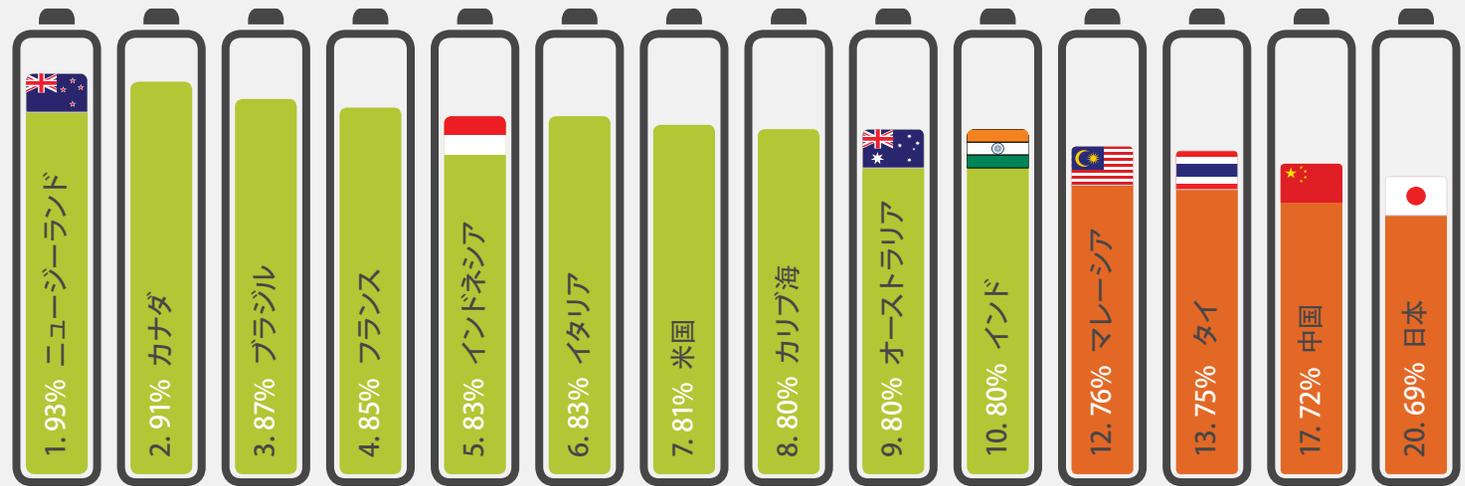


エコへの取り組みについて

エコを意識したグリーンプログラムは宿泊客とホテル担当者の両方に意義のある取り組みです。トリップアドバイザー業界指数調査2012では回答のあった2万5千の施設のうち、88%もの施設が環境を考慮した取り組みが重要であると感じています。

国別のエコへの取り組み状況

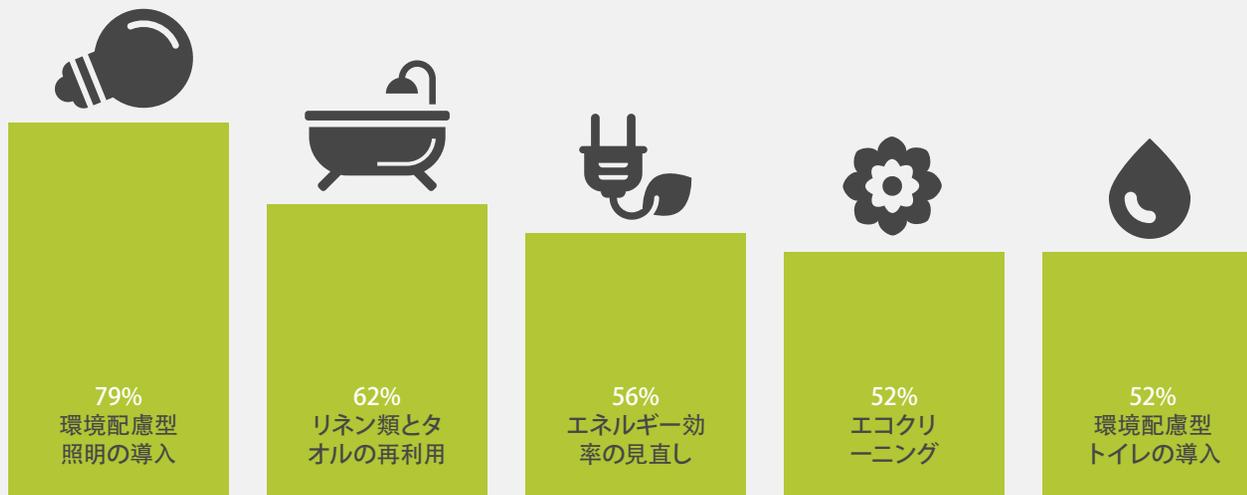
世界各国と比較しても、ニュージーランド(93%)とインドネシアのホテル(83%)は、エコへの取り組みについて、高い割合のホテルが実践していると結果が出ました。



代表的なエコへの取り組みについて

世界中の宿泊施設において代表的なエコへの取り組みは下記の様になりました。

*数値はその地域内で少なくとも1つ以上のエコへの取り組みを行っているホテルを母数とし、そのうち何%が各個別の取り組みを行っているかを示しています。



環境配慮型マーケティング施策

全世界の3分の1以上のホテル(34%)がエコへの取り組みを旅行者には伝えていませんでした。



トリップアドバイザー業界指数調査2012: 調査方法

トリップアドバイザー業界指数調査2012は、2012年7月7日~14日までの期間に無作為抽出で選ばれた全世界の宿泊施設にeメールにて質問が送られ、その後回収の上集計されました。今回の調査には全世界25,517件の宿泊施設から回答を頂きました。分析、その他の調査に関するコンサルティングはBrainbox Research, Ltd.によって行われました。

下記の国はやや他の国と比べて回答数が少ないためご注意ください
い: 中国 (188)、マレーシア (129)、メキシコ (151)、ロシア(64)